

豊かな文字文化に触れる

文字文化コラム「文字の『おみ』」

豊かな文字文化に触れることで、文字を手で書くことの価値や楽しさを知り、主体的に文字を使おうとする心を育てる、それは「新しい書写」を通底するテーマの一つです。文字文化に特化したコラム「文字のいずみ」を各学年6〜10か所に設け、多様な内容で文字への興味関心を高めます。

三年	二年	一年
◆仮名の起こりと字源(P17) ◆いろは歌(P19) ◆速く書きやすい書き方(P23)	◆平仮名と字源(P59) ◆文字と絵(P61) ◆手書き文字と活字(P72〜73)	◆仮名の起こりと字源(P17) ◆いろは歌(P19) ◆速く書きやすい書き方(P23)
◆手紙の書き方(P27) ◆文字の成り立ちと移り変わり(P28〜29) ◆筆脈(P31)	◆書き初めの広まり(P74) ◆明朝体の始まり(P73) ◆書いて味わおう「平家物語」(P78)	◆手紙の書き方(P27) ◆文字の成り立ちと移り変わり(P28〜29) ◆筆脈(P31)
◆伝統的な用具・用材(P40〜41) ◆書き初め(P44) ◆書いて味わおう「竹取物語」(P48)	◆仕事の中の手書き文字(P84〜85) ◆書き初めとどんど焼き(P90)	◆伝統的な用具・用材(P40〜41) ◆書き初め(P44) ◆書いて味わおう「竹取物語」(P48)
◆古典をもとに(P94〜95) ◆高校生の活躍(P95)	◆書くことを楽しむ 日本・世界の文字文化、世界の文字文化(裏表紙裏)	◆古典をもとに(P94〜95) ◆高校生の活躍(P95)

文字のいずみ

二十四節気と季節の挨拶

二十四節気とは、立春を起点として一年を二十四等分した季節の区分です。

春の挨拶

- 立春(二月四日) 暦のうえて春の始まる日。二月四日頃。
- 雨水(二月十九日頃) 雪や氷が解けて水になり、草木が芽生える時季。二月十九日頃。
- 春分(三月二十日頃) 昼と夜の長さがほぼ等しくなる日。三月二十日頃。
- 清明(四月四日頃) 花が吹き始め、万物が清らかになり、さきさきしてくる時季。四月四日頃。
- 穀雨(四月二十日頃) 春雨が田畑を潤し、種まきによい時季。四月二十日頃。

春の挨拶

- 春寒の候
- 余寒の折
- 少しずつ日差しに明るさを感ずる時季
- 三寒四温とは申しますが
- 早春の候
- 春暖のみぎり
- 水ぬるむ時季
- 梅の香りに春の訪れを実感する毎日
- 桜花の候
- 陽春の折
- 日もうらかな季節
- 花冷えの日々が続いておられます

桜便りが届く季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。



109

文字のいずみ

書き初めをしよう

書きたい言葉と書体を考え、これまでに学習してきた「書写のかぎ」を生かして、書き初めをしよう。

目標

- 10 基本の点画の書き方
- 20 文字の大きさの配列
- 30 行書体・草書体・平仮名の書き方
- 34 点画の連続
- 36 点画の変化

書き初め

新年に初めて毛筆で文字を書く行事です。主に一月一日に行われ、新年にふさわしいおめでたい意味の言葉や詩歌などを書きます。「吉書」「初祝」などもいいます。

温故知新 山下康平

夢の実現 池田ひかり

美しい緑し

早春

これまでに学習した「書写のかぎ」をどのようなところに生かして書いたか、説明しよう。

44

美しい手書き文字に触れる

整った文字を書くためには、整った文字を多く見ることが不可欠です。美しい文字に触れることで、自分の文字をよりよくしたいという思いが生まれます。「新しい書写」では、毛筆文字と硬筆文字の整合性を図りながら、生徒の発達段階に合わせて細部までこだわった、健康的で美しい書風の教材文字を掲載しています。

豊かな自然

長崎市大山町二丁目五十八番地
石川直樹先生
松は幸うくすを十六
久保田 陸

57

文字の成り立ちと移り変わり

漢字をもとに日本で生まれた仮名

中国で生まれた漢字

篆書

隶書

草書

行書

楷书

平仮名

片仮名

小篆

大篆

金文

甲骨文

篆書(例) 天

隶書(例) 天

草書(例) 天

行書(例) 天

楷书(例) 天

平仮名(例) て

片仮名(例) ㇿ

29

28